

取組の背景・目的

【背景】

2014年に、当時交流館の音楽室を使用していた高校生の声をきっかけに、TEEN'S LIVEが始まった。“俺たちが作る、オレたちのライブ”をサブタイトル、コンセプトとしている。

ライブミーティングと称して、参加者が集まり、企画・準備・当日の運営など役割分担を行い開催。新型コロナウイルスの影響による開催の中止や、マスク着用などの感染症対策を行ったうえでの開催を経て、今年度はマスク着用の制限などを緩和し、開催した。

居場所への多様なニーズが生まれており、「好き」を共有できる相手や場所を求める姿があった。

【目的】

- 1 自己実現のできる場を増やす
- 2 社会性を身につける機会を提供する
- 3 地域の方々に中高生世代の理解を深めるきっかけとする

取組の概要

TEEN'S LIVE～俺たちが作る、オレたちのライブ～の実施に向けた取り組み

○実施日時

12月23日（土）午後1時30分～3時30分

○実施場所

志茂子ども交流館 プレイホール

○対象

中高生世代

○職員体制

交流館職員

○実施方法

- ・9月から参加希望団体受付開始
- ・10月から12月にライブミーティング（※運営に向けたライブ参加者による運営委員会）を全3回実施。
- ・12月にリハーサルを行う
- ・イベント当日は舞台進行などを参加者が行う

工夫点・留意点

「目的 1」を達成させるために、周知活動に力を入れた。軽音部やダンス部などにターゲットを絞り、学校に出向いた。また、地域の中学校へお知らせを配布。あわせて区のHPに掲載。共通の目的を持ち、準備から当日の運営など、イベントをやり遂げる体験を通し、安全で安心できる居場所づくりを行った。

「目的 2」を達成させるために、ライブミーティングに力を入れた。ライブ運営に必要な準備・役割について、参加団体へ事前アンケートを行った。アンケートの結果はライブミーティングの初回に参加者へ報告。よりよいイベント運営のために参加者全員で上がった意見を共有し、運営を進めた。職員は、上がった意見について正解を出すのではなく、何を大切にしていきたいかなど、参加者に伝えた。また、意見に対し、大人目線でストップさせないように努めた。

「目的 3」を達成させるために、交流館運営委員等を招待した。また、参加者が作成したポスターを、各参加者に学校へ掲示の依頼をもらった。参加者が広告塔になることで、学校などの機関と参加者がコミュニケーションできる機会を意図的に作った。

取組の効果

ライブミーティングにおいて、検討、準備作業を通し、参加者同士の交流を重ねることができた。進捗状況を毎回共有することで、担当以外の作業を助け合う姿も見られた。他グループとの交流は職員が仲介することもあったが、参加者同士だけでなく職員も間に入ることで、時間の共有を重ねて顔見知りが増え、ミーティングを重ねるごとに全員の距離が近くなった。準備してきたものが当日形になったことに満足し、来年の参加への意欲に繋がっていた。

TEEN'S LIVE 当日は、家族・学校関係者・運営委員の他に、一般来館した乳幼児親子を含む地域住民、小学生の観覧もあった。開かれた環境で運営できたことにより、様々な人に活動や音楽を通じた居場所づくりが届いたと感じる。

1つのことをやりとげた経験を経て、場所・時間・人との交流を通し、物理的にも心理的にも居場所として、一人ひとりの心に残ったのではないかと考える。



課題・今後の展開

今回の TEEN'S LIVE は、新たに地域の中学校の参加もあった。今まで積み重ねてきたものが地域に浸透してきたように思い、今後も継続していく必要性を感じた。

自分の好きなことを尊重しあえる、同世代と過ごせる居場所を、自ら調べて、もしくは居心地よい居場所をともに探してくれる家族や学校コーディネーターなど関係する大人の支えでたどり着くことができた子もいる。今後も、どんな環境でも居場所を必要としている中高生世代へ届くような周知を行うことが課題だと感じる。

施設を活かした居心地の良い居場所づくりについて、中高生世代の意見をもとに、職員一同で検討し取り組んでいきたい。